



第1回DIC協議会総会 資料

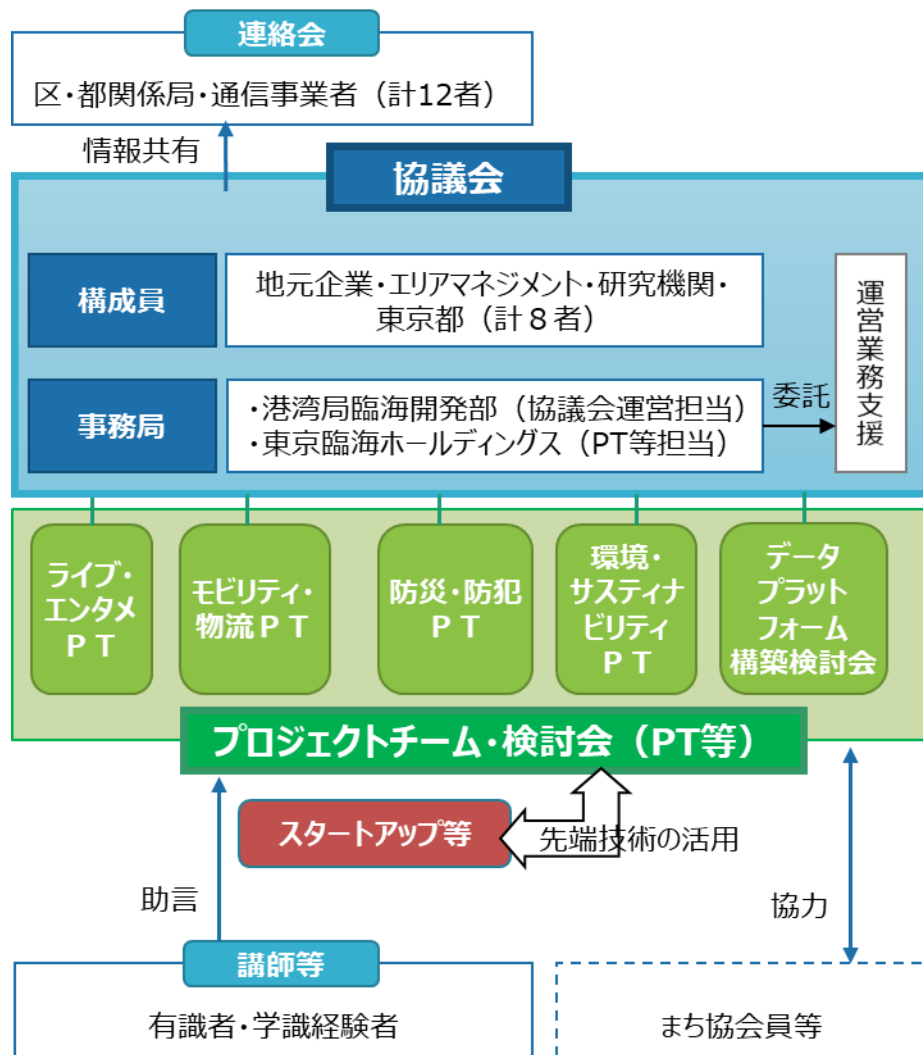
令和4年4月25日

1. 令和4年度DIC協議会の進め方

2. 令和4年度PT・検討会が実施する実証またはイベント企画

3. 今後のスケジュール

令和4年度Digital Innovation City協議会の体制



名称 (実施予定回数)	役割等
DIC協議会 (年4回程度)	<ul style="list-style-type: none"> 実施事業： <ol style="list-style-type: none"> DICの方向性と実現 先端技術の実証またはイベントの企画 臨海副都心における5G通信網やデータプラットフォームなどの基盤整備推進 協議会及びDICに係る広報 その他、DIC推進に係る取組に関すること
プロジェクトチーム・データプラットフォーム検討会 (PT等) (各年6回程度)	<ul style="list-style-type: none"> テーマ： <ul style="list-style-type: none"> ライブ・エンタメ、モビリティ・物流、防災・防犯、環境・サステナビリティ、データプラットフォーム構築 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 各PT等のテーマに係る臨海副都心における課題と、デジタル等先端技術による解決事例の検討 (1)に係る先端技術の実証またはイベントの実施 (2)で実証等を実施した先端技術の実装に向けた検証 その他、DICの実現に向けた諸課題に対する取組に関すること <p>※予算計：6,000万円 (各PT1,000万円、検討会2,000万円)</p>
連絡会 (各年4回程度)	<ul style="list-style-type: none"> 協議会、PT等の活動内容を、地元区、都関係局、通信事業者等へ定期的に共有
講師等	<ul style="list-style-type: none"> 学識経験者等の有識者をPT等へ招へい (運営業務支援委託に含む)
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 東京都港湾局臨海開発部 (協議会運営担当) 東京臨海ホールディングス (PT等担当) 運営業務支援を都から委託

令和4年度Digital Innovation City協議会のスケジュール

取組		令和4年（2022年）										令和5年（2023年）		
		1～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会	総会		第1回					第2回		第3回				第4回
	連絡会			第1回					第2回		第3回			第4回
検討会・PT	会議	第2・3回 開催		第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		第6回
先端技術の実装に向けた取組	データプラットフォーム構築検討会	実証	検証	委託の募集・選定			調査・実証・要件整理							
	ライブ・エンタメ			先端技術の募集・選定				実証			実証			
	モビリティ・物流	実証	検証	先端技術の募集			実証							
	防犯・防災			委託の募集・選定			(調査・実証・要件整理)							
	環境・サステナビリティ			承認				(実証)				(実証)		
	自動運転	実証	検証	公募			選定	実施調整			プロジェクト実施		検証	
DICワンストップ窓口	RHDとの調整	各施設等との調整			窓口開設	スタートアップ向けPR・受入調整								
5G普及促進事業	事前調整・契約準備	契約	実施準備		5G専門家派遣・通信キャリア等との調整・DX化補助金との連携									
DX推進補助金	協議会・まち協等との調整	募集開始	協議会・5G普及促進事業との連携による制度周知・支援											
広報	SNS	Facebookページを活用したPR（随時）												
	HP	ホームページを活用したPR（随時）												

実証の検証を踏まえた令和5年度の方針性検討

1. 令和4年度DIC協議会の進め方

2. 令和4年度PT・検討会が実施する実証またはイベント企画

3. 今後のスケジュール

応募状況

	テーマ	企画概要	企画者・企画参加者
1	①ライブ・エンタメ	花火＋音楽＋3Dホログラム（3D Phantom） 花火開催時にテレコムセンター展望室で花火と音楽とシンクロしたホログラム映像投影	（一社）東京臨海副都心 まちづくり協議会（にぎわいPT） 株式会社Life is Style
2	①ライブ・エンタメ ⑤環境・サステナビリティ	「VISIONS SUPER LIVE VIEWING」 あらかじめ撮影したライブコンサートの12K高精細映像による臨場感検証実験	森ビル（株） 株式会社IMAGICA EEX
3	②モビリティ・物流 ⑤環境・サステナビリティ	視覚障害者ナビゲーションロボット「AIスーツケース」 テレコムセンター駅＝日本科学未来館間（案）でのAIスーツケースを用いたソリューション技術実証を実施。視覚障害者だけでなく、高齢者、一般参加者の体験も実施し、都民の「インクルーシブ」への啓発・意識向上も推進	国立研究開発法人 科学技術振興機構 日本科学未来館

事前審査

- DIC協議会運営事務局により、各団体に対してヒアリングと事前審査を行った。
- 審査項目は、「課題解決への貢献」「新規性・斬新性」「運営体制」など7項目
- 3件とも項目を満たしており、協議会総会の承認を経て採用としたい。

1.魅力的なイベント等を体験できるまち（東京臨海副都心まちづくり協議会）

テーマ
①ライブ・エンタメ
臨海副都心の課題
臨海副都心から東京タワー方面に広がるレインボーブリッジや湾岸エリアのビル群が連なる夜景は世界有数だが、ユニークベニュー等をはじめ、広大なエリアに点在している施設において、イベントでのさらなる活用余地があると思われる
2025年に目指す姿
エリアのユニークベニュー等をはじめとする施設が、リアルタイムで配信されるライブや遠隔イベント、YouTube等映像を3Dホログラム映像で表現し、場所等の条件に縛られず、臨海副都心エリアならではのロケーションを生かしたイベント実施を容易にすることで、地域内のエンタテインメント活用の幅を広げ、体験価値向上を図る
企画概要
■ 企画名称案 魅力的なイベント等を体験できるまち
■ 企画概要案 【リアルイベントと先端技術を活用した空間演出】として、テレコムセンター展望室から見渡す景色を生かしつつ、3Dホログラム映像を夜景に重ね、今までにない空間演出を実現。冬のお台場の風物詩である「お台場レインボー花火」に合わせ、「新しい花火の見方」の実証を行い、発展的な取り組みを目指します。
■ 開催時期 2022年12月（予定）

活用する先端技術	
3D Phantom®（3Dホログラム的映像表現が可能で、軽量化、設置自由度の向上により、イベント等への活用を実現した技術）	
企画参加者・役割	
■ 企画：一般社団法人 東京臨海副都心まちづくり協議会 ■ 開発：株式会社Life is Style	
3か年計画	
1年目	■ テレコムセンター展望室で観覧会実施。花火打ち上げ（お台場レインボー花火）の夜景に3Dホログラム映像投影。新体験の確立。
2年目	■ 3Dホログラムの奥行の表現拡大及び、より広いスペースでの検証と拡充
3年目	■ 屋外などの環境下における進行中の技術運用検証
想定KPI	
■ 観覧アンケート満足度（アンケート評価） ■ 当該イベント以外でのエリア滞在度 ※事前/事後含む（アンケート評価）	

1.魅力的なイベント等を体験できるまち（東京臨海副都心まちづくり協議会）

2025年に目指す姿

- エリアのユニークベニュー等をはじめとする施設で3Dホログラム映像で表現し、臨海副都心エリアならではのエンタテインメント活用の幅を広げ、体験価値向上を図る。

R4実証イメージ



お台場レインボー花火

出所：お台場.net



テレコムセンター

出所：TOKYO Unique Venues



3D Phantom

出所：Life is Style

2.高臨場感ビューイング施設（森ビル株式会社）

テーマ

①ライブ・エンタメ / ③環境・サステナビリティ

臨海副都心の課題

人を誘引する「エンタメ」、「コンテンツ」を現状よりさらに集積させる必要がある

2025年に目指す姿

新しいエンタメ・サービスの「ビジネスモデルの実験・検証」が集積し、それが常設化・実装に繋がるエリア
（最先端技術ありきで、その技術をどう使うかという実験・検証では、ビジネスとして成立せず実装に至らないことが多い。臨海副都心は、『事業として成立』し、且つ先端技術を用いた新たなエンタメ、サービスの実験・検証がなされるエリア）

企画概要

■ 企画名称案

「VISIONS SUPER LIVE VIEWING」

■ 企画概要案

あらかじめ撮影したライブコンサートの12K高精細映像を活用したビューイングにおいて、臨場感を増すテクノロジーの実験と検証を実施しユーザー満足度の高いイベントの実施と事業化を目指す

■ 開催時期

検討中（開催場所の空き状況及びエリアにおける大型イベントとの連動等を踏まえて決定）

活用する先端技術

高臨場感ビューイング技術「VISIONS SUPER LIVE VIEWING」（12K高精細映像およびその周辺テクノロジー。イベント時の電力を再生可能エネルギーで賄う等、環境に配慮した取り組みとする）

企画参加者・役割

- 企画：森ビル株式会社
- 企画・開発・検証：株式会社IMAGICA EEX

3か年計画

1年目 ■ 技術面の検証

2年目 ■ 興行面の検証

3年目 ■ 事業展開・拡張の検証

想定KPI

- ユーザー満足度（アンケート評価）
- テクノロジーの実験と検証

2.高臨場感ビューイング施設（森ビル株式会社）

2025年に目指す姿

- **新しいエンタメ・サービスの「ビジネスモデルの実験・検証」が集積し、それが常設化・実装に繋がるエリア**

R4実証イメージ



高臨場感ライブビューイングのイメージ



出所：IMAGICA EEX Inc.



東京国際クルーズターミナル

出所：東京国際クルーズターミナル



出所：IMAGICA EEX Inc.

3.視覚障害者ナビゲーションロボット「AI スーツケース」実証実験（未来館）

テーマ
②モビリティ・物流/③環境・サステナビリティ
臨海副都心の課題
臨海副都心地域における障害者・高齢者の移動、回遊の困難さ。アクセシブル、インクルーシブな移動・回遊環境がない。
2025年に目指す姿
視覚障害者、車椅子、高齢者といった移動に不自由にある方が気軽に来訪して、各拠点間を自由に移動し、街を楽しむことができる、インクルーシブな街。
企画概要
■ 企画名称案 視覚障害者ナビゲーションロボット「AIスーツケース」実証実験
■ 企画概要案 テレコムセンター駅～日本科学未来館間（案）でのAIスーツケースを用いたソリューション技術実証を実施。視覚障害者を目的地まで安全に誘導、案内し屋外・屋内の区別なく、市街域での安心、自由な移動が可能であることを実証する。視覚障害者だけでなく、高齢者、一般参加者の体験も実施し、都民の「インクルーシブ」への啓発・意識向上も推進する。
■ 開催時期※研究開発状況にて要相談 第一候補：2022年9月下旬（10日間程度） 第二候補：2023年3月上旬（10日間程度）

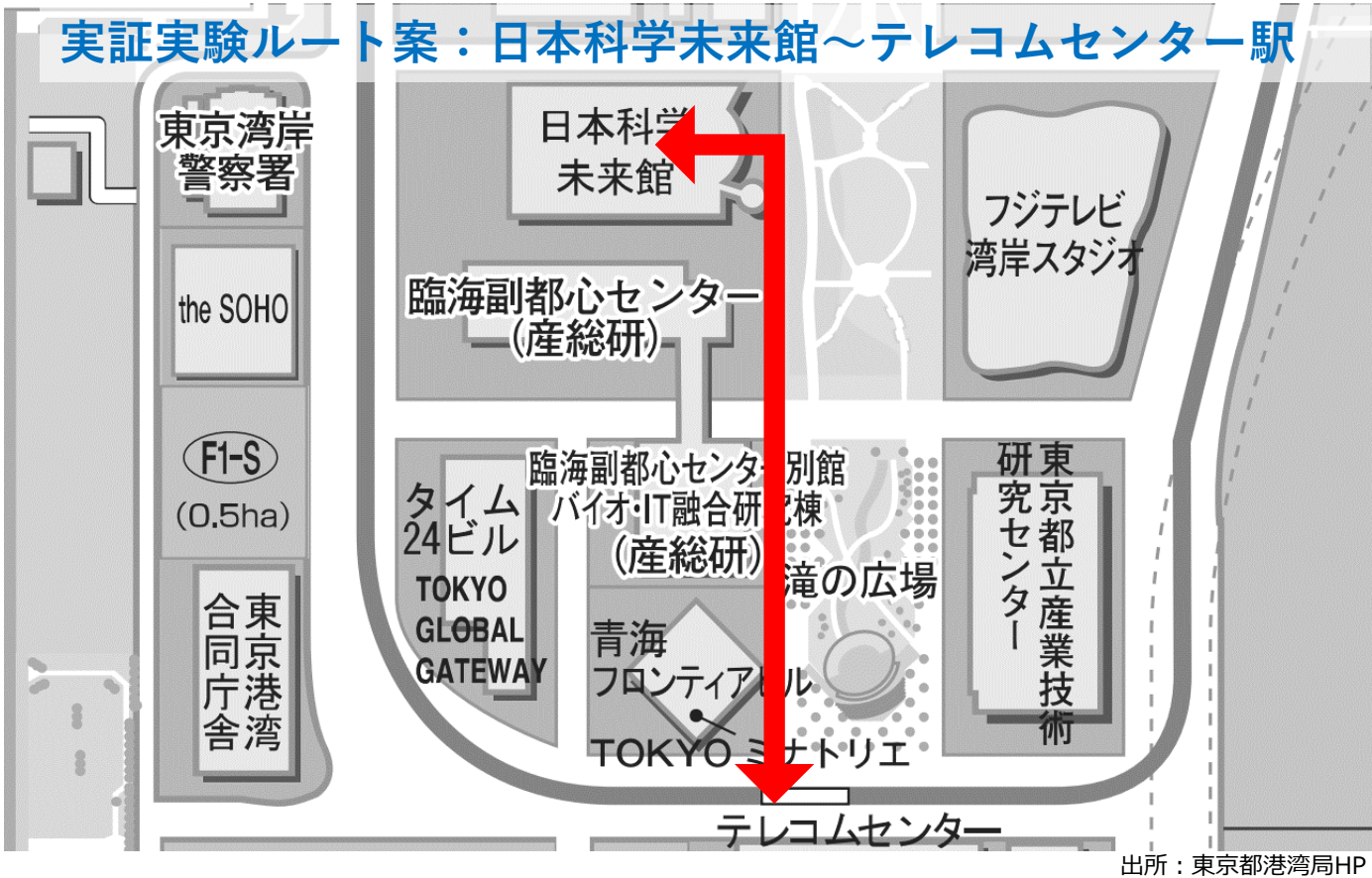
活用する先端技術	
AIスーツケース（高精度GPSと画像認識、経路判断などのAIを組み合わせ、視覚障害者を安全に誘導するロボット）	
企画参加者・役割	
■ 企画・開発・実証・広報：日本科学未来館 ■ 技術協力：次世代移動支援技術開発コンソーシアム ■ イベント運営：運営会社を選定	
3か年計画	
1年目	■ 限定エリアでの屋外・屋内走行・ナビゲーション実証 ■ 公道・横断歩道通過の関係各所との協議・調整（通年）
2年目	■ 1年目実証を基に、新型ロボット開発・ロールアウト ■ 公道・横断歩道通過経路の検証および実証実験を行う。
3年目	■ 域内の駅・商業施設・イベント会場を結んだ、自由な域内行動・ナビゲーションの検証・および実証実験
想定KPI	
■ 障害者の移動不安・不満の解消（アンケート評価） ■ 一般都民の障害やアクセシビリティ、インクルーシブな取り組みに係る意識向上（アンケート評価）	

3.視覚障害者ナビゲーションロボット「AI スーツケース」実証実験（未来館）

2025年に目指す姿

- 視覚障害者、車椅子、高齢者といった移動に不自由にある方が気軽に来訪して、各拠点間を自由に移動し、街を楽しむことができる、インクルーシブな街

R4実証イメージ



1. 令和4年度DIC協議会の進め方
2. 令和4年度PT・検討会が実施する実証またはイベント企画
3. 今後のスケジュール

今後のスケジュール

PT等の実施

- 5月に、ライブ・エンタメPT（+環境・サステナビリティPT）、モビリティ・物流PT（+環境・サステナビリティPT）、データプラットフォーム構築検討会（+防犯・防災PT）の今年度第1回を開催予定
- 以降、2カ月に1回の頻度（2022年7月、9月、11月、2023年1月、3月）で定期開催の予定

モビリティ分野における先端技術の募集・選定

- 今後、公募を開始し、2022年6月までに先端技術の募集・選定を完了させる予定

自動運転プロジェクト <https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2022/04/26/04.html>

- 2022年4月26日から募集開始 公道および都有地（公園）でプロジェクト実施予定

DICワンストップ窓口（仮称）

- 2022年7月ごろ受託事業者を決定し、（株）東京臨海ホールディングス内に開設予定

5G普及促進事業

- 5G通信を活用したユースケースを取りまとめ、2022年7月頃に勉強会を開催
- 今後、まちの事業者を支援する専門家派遣事業を実施予定

DX推進補助金 <https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2022/04/04/03.html>

- 交付申請を2022年4月4日から開始

第2回総会

- 次回、2022年9月に第2回総会を開催予定